

2019年5月30日

JR東日本 仙台支社

宮 城 県

仙 台 市

JR東日本・宮城県・仙台市は、仙台圏での観光型 MaaS 構築に向けて連携します

現在、複数の移動手段などの検索・予約・決済を一括してシームレスに行える仕組み「MaaS (=Mobility as a Service)」を地域の課題解決に活用しようという試みが、国内外で活発に行われています。

このたび、東日本旅客鉄道株式会社(以下「JR東日本」)・宮城県・仙台市は連携して、仙台圏を訪れる観光客に、移動・観光・宿泊施設、飲食・物販店などのサービスを安心・快適に利用してもらうことを目指して、「仙台圏における観光型MaaS」を検討していくことにしました。

今後、参画企業・団体を募りながら実証実験を重ね、2021年4月～9月に開催される「東北デスティネーションキャンペーン」での活用を目指してまいります。

1 取組みの目的

仙台圏を訪れる観光客に、必要な情報の検索や各種予約、決済をシームレスに行える仕組みを提供することで、観光地としての魅力やサービスの向上を図り、観光事業の活性化や交流人口の拡大につなげます。

2 検討会の設置

(1) 検討会の立ち上げ

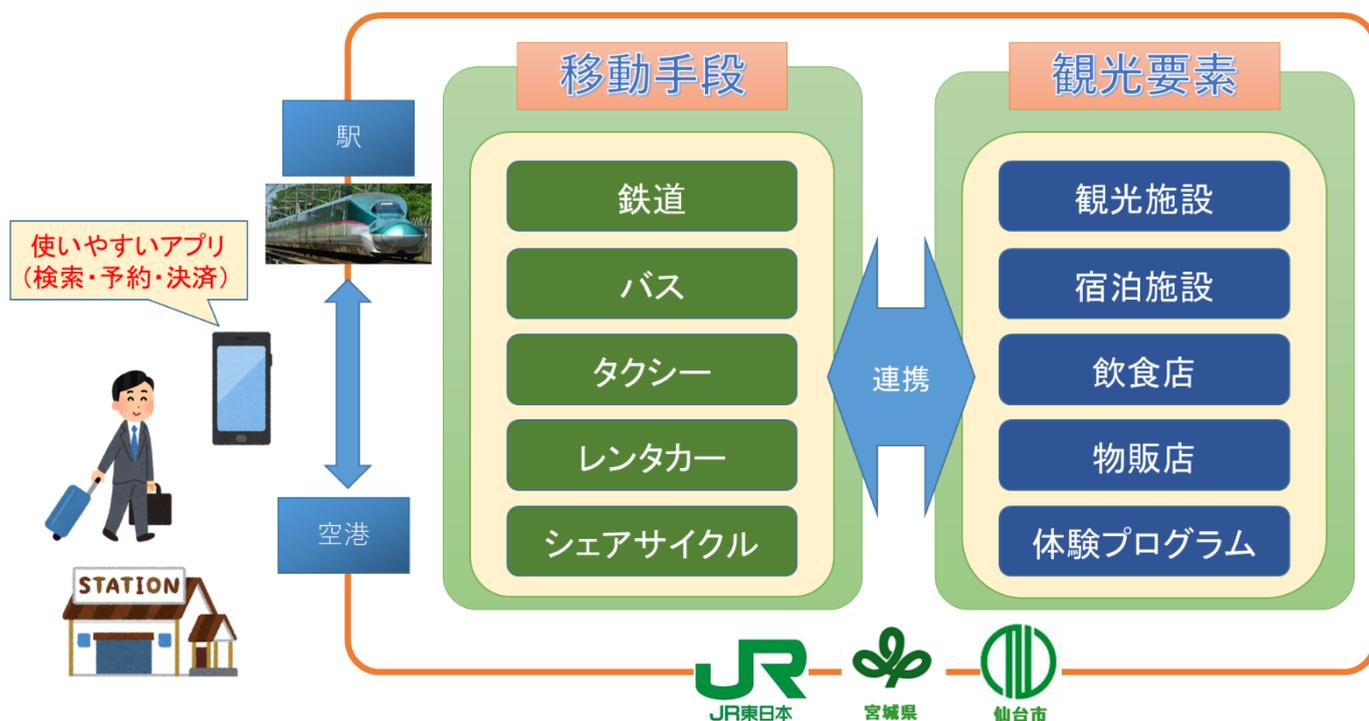
JR東日本・宮城県・仙台市の三者により、「仙台圏における観光型 MaaS」の検討会を立ち上げます。

なお、実証実験に参画する企業・団体は幅広く募ってまいります。

(2) 進め方のイメージ

- ・観光客が仙台圏に入ってから出るまでの一連の動きや、滞在中のニーズ等を踏まえながら、求められるサービス内容を検討します。
- ・移動はもとより、観光・宿泊施設、飲食・物販店や体験プログラムなどを提供する各企業・団体等の皆さまを幅広く募り、実証実験の体制づくり等を検討します。
- ・2021年4月～9月に開催される「東北デスティネーションキャンペーン」での活用を目指して、実証実験を行います。

<仙台圏での「観光型 MaaS」のイメージ図>



【MaaS(=Mobility as a Service)とは】

- ・一般的には、あらゆるモビリティ(移動手段)において、目的地までの最適なルートや交通手段の検索、予約、決済等をスマートフォンのアプリなどで提供し、快適でシームレスな移動を実現するサービスを指しています。2016年にフィンランド・ヘルシンキからサービス提供がスタートし、世界に広がりました。
- ・国内においては、都市圏では混雑や環境問題、地方では地域住民に向けた移動サービスの維持困難などの社会課題があります。あわせて、観光客をターゲットとし、移動サービスだけでなく観光要素を盛り込んだ「観光型MaaS」のニーズも高まっています。これらの解決を目指して、日本版 MaaS の実証実験の実施や同業種・異業種・官民などの多様な連携が活発になっています。

【参考】JR 東日本の取り組みについて

- ・2018年8月:首都圏における「Ringo Pass」※¹による実証実験を実施しています。
- ・2019年1月:小田急電鉄株式会社との、日々の通勤・通学の際の利便性向上を主な目的としたMaaS提供に向けた連携を発表しました。
- ・2019年3月:MONET Technologies社との連携に向けた検討の開始を発表しました。
- ・2019年4月:静岡デスティネーションキャンペーンに合わせ、東京急行電鉄株式会社と連携し、伊豆エリアにおいて、「Izuko」※²による観光型MaaS実証実験を開始しています。
- ・2019年4月:MaaS事業推進のための専門組織として、技術イノベーション推進本部内にMaaS事業推進部門を設置しました。
- ・2019年4月:今後、JR東日本が提供するMaaSにおいて主要な役割を果たしていく「JR東日本アプリ」のサービスを一新しました。

<※1 Ringo Pass 概要>



<※2 Izuko 概要>



※レンタサイクル・レンタカーはリンク経由